



孫余見破志

初編

拾巻

遠13
2475
11



明遠 3
番 2475
巻 11

一 理事 二 雙
一 運事 二 雙
一 運事 二 雙



錄倉見聞志前編卷拾五

目錄

一 祐成時致之旨 祐成時致之旨

一 曾村見聞十善切の事

茶磯業

内行多採



謙倉見聞志前編巻之拾七



祐成時致之成祐經と討ま

建久四年一月廿八日為種見守中
崇年奉来心をそとて父の仇之成
お母の厨祐經今宵月一を准中旅
亭小忠び入討まらうあつちやま
生死と今日と扱ひて部人の節

きりく記しむと持せ古くはゆ今
おのいあしきまみ一室明の月と
まんと衣女が将を承り白帷子
あつ列をさるぬのふ了帷子とま
ゆり村多の車を飛袴の裾さく
く袴を心き直の小具とま
相得別當より編りりぬる徹をば
男をちりともまき善き道をよま

ゆ海あり松明をさるぬあつり時致
か出さるりふさき神をさるぬあつり
くぬの帷子とまき直の小具とま
袴の裾さく袴を心き直の小具とま
胸中りぬるま赤糸の柄の裾り源氏
字代の友切と長きちり糸束を結
いさむさかろふ十所衣女松明を
振るもいりよ時致切りりあつり

くら款祐經を今宵に討ま
とちりご心婚してそおほを
て部のしり用さしりも
まへ積負好この程を
勿海款を討あふとら
えま舟よとらゆと
りまひは調とら
今宵の名新汝が頼を
て

何途に西の泉の及ま
道するべしと
く款を討ある後
こまに
見納はるべし
丹火把を
か
ら

うらみあ子の刺さるる海苔餅を
あつらひに種がほむしとまきさらば
中々別しとあふまぬ人ありと種
まじしとたぬ偽り欺きと種
歌の宿所まきとあひ入るは
只扱きと種が宿所あつらひ
くらふと酒宴の種まきと種
聖之教とあつらひと人物も

あつらひしと兄弟あつらひと種
とあつらひと種と種と種
十節種あつらひと種と種と種
うらみと種と種と種と種
種と種と種と種と種と種
種と種と種と種と種と種
種と種と種と種と種と種
種と種と種と種と種と種
種と種と種と種と種と種
種と種と種と種と種と種

悔悔 悔悔の道理ぬりて安んずる
 次第 悔悔は是れが心よりひの結核と
 悔悔 悔悔然本をさとて悔悔する事
 悔悔 悔悔は悔悔が悔悔の悔悔
 心元 悔悔 悔悔と悔悔と悔悔
 次第 悔悔の悔悔は悔悔の悔悔
 悔悔 悔悔 悔悔の悔悔は悔悔
 悔悔 悔悔 悔悔の悔悔は悔悔
 悔悔 悔悔 悔悔の悔悔は悔悔

悔悔 悔悔の悔悔は悔悔の悔悔
 の悔悔は悔悔の悔悔は悔悔
 悔悔 悔悔 悔悔の悔悔は悔悔
 悔悔 悔悔 悔悔の悔悔は悔悔
 悔悔 悔悔 悔悔の悔悔は悔悔
 悔悔 悔悔 悔悔の悔悔は悔悔
 悔悔 悔悔 悔悔の悔悔は悔悔
 悔悔 悔悔 悔悔の悔悔は悔悔

そ心もまはれ来り多しと愛をひか
お兄身の名書おろし跡も有る沙
み平多一間の市をたし是し彼
人の爲訓なり入る本さしとけあ
とあもさつりお兄身様も今百忌
汝も誰と尋ねば多々顔もわさ
れり物とて杖父の役ありと云
をよめお兄身と聞て何れも果

之をり爲訓なりお兄身人様
しそも白鳥の西遊志死も
つし平多り告めりいそ
いつらひし訓もあつて
あつてと書ぬが内に入ら
るるはあつてお兄身
ふし居りたりとて
は書つての地もあつて

昔もつたか神の少將國を
一見せよとてかたはるる
河津をよこしてあはれ
まはるる女をなすつて遠の
押中へ直は開くはと見せ
猪俣のたかまらるるひつ
運のさるる少将の酒を

子身神守も熟極の物
花好まると所傳へし
むい和のそと人海月と
とやなまら何致色と愛
の押もさえつとそれが
そつめらるる大春月と
あも父の仇猪俣と討
んせらるる志るる女

捨重と化人と切なきはあつた
帝より兄の半をまじへ初太力を
一のちかひ某はるまきなり人
肉目と見えしはあつた討捨
まはたけくはそはるまきなり
ゆき十部打しは実徳あり
絶ふ事未初太力をまじへ
が家へ一人と殺し死人を切

同室のまじへるは初太力を
りもあつた討しは初太力を
りもあつた討しは初太力を
帝初太力同室討敵父の徳を
せんから見えしは推系いそ
まじへるは初太力を
ららまじへるは初太力を
ららまじへるは初太力を

祐經どののこゝろしつゝふと女古邊
夢のちと海を船をこも兄弟を
見るより心得るし柁を元くち
つらんとする命を起しもかひ十所
祐が心切付し廿四日七十八寸
切下りあり世所何致法元かりしと
さぬ祐經が股を切あらし切海を流る
のこゝろと口と接合をして倒す

る子と兄弟は二口切らるる
たは物も大なるが海をあら
起あがりてぬ物も今有
の始終敵はせんを切らるる
は日よる子と心ありて海をあら
迎むるあまのちを海にさし
子一うまも明けがしを海にさし
まひて迎むる祐成悟まのま

江よりぬ国々物んせんしと流りけはぬ
うし流り切付まふ人海内が服の間
腰際力一をひ切破くう時致接合
をりめり流りし海内と躍りあが
ひり切付し海内よりまろニツ切
まぬりりるまろしむり人海内見
身がりめりし海内とめりし回らる
り死しめりし海内と押ぬりし

前より見ぬ名他の波多しとま
もめりし海内とまろし海内のま
まろし海内とまろし海内のま
まろし海内とまろし海内のま
まろし海内とまろし海内のま
つるもめりし海内とまろし海内のま
来のし海内とまろし海内のま
るるる(牛)ららららららららら

四十の田力回つめぬららら

新いよきまにむすぶ祐女をよみて
しほ娘がよきまに吊ひけり
女歌と討く日海の本さるる
ぬゆふ情の命あまの今一
古彌を思ひ母を思ひし
昔もよきまにむすぶ
りよきまにむすぶ
りよきまにむすぶ

多のしほ娘のむすぶ
ぬゆふ情の命あまの今一
古彌を思ひ母を思ひし
昔もよきまにむすぶ
りよきまにむすぶ
りよきまにむすぶ

母まごころかきとるはるの故に
 しがたてはてはるの
 西家入あとお母切死はる所好
 ありしちまはる祐成候はる
 そ思ひはる今人のしんせ
 報しの心成引見入あはるいづ性あ
 名あ入はるあはるいづ時致心付
 くらまはるはる祐成はるいづあ

母まごころかきとるはるの故に
 しがたてはてはるの
 西家入あとお母切死はる所好
 ありしちまはる祐成候はる
 そ思ひはる今人のしんせ
 報しの心成引見入あはるいづ性あ
 名あ入はるあはるいづ時致心付
 くらまはるはる祐成はるいづあ

先年山根様にお見えなすはがし編の
ゆるは編のりよむしにゆきかき
きよしゆりゆきかきしゆきかき
まじりゆきかきの世末周のりよむし
むきかき今家おきかきゆきかき
ゆきかきゆきかきゆきかきゆきかき
既におきかきゆきかきゆきかき
ゆきかきゆきかきゆきかきゆきかき

申来々ゆきかきゆきかきゆきかき
おきかきゆきかきゆきかきゆきかき
まじりゆきかきゆきかきゆきかき
ゆきかきゆきかきゆきかきゆきかき
天地をひげし大なるあけがる村十郎
祐成同み所時致兄弟父の款之存
ゆきかきゆきかきゆきかきゆきかき
今家ゆきかきゆきかきゆきかき
ゆきかきゆきかきゆきかきゆきかき

近きこの後屋へ大母が居たこと
 ままら曲者入るなりと強節なり
 物と人雨降出と母父五月廿八日
 の由満るなり後なるも国はあま
 らぬ暗夜なるもあまなり少く出
 る物なり和岡島と肥二の宮が後屋
 にもしき事なりあまなりとあまの振
 出はあまの由なるもあまなりとあま

ひんあはらうきさきあまなりとあまの振
 出はあまの由なるもあまなりとあま

芳村兄弟十善軒の事

祐成何故の者人々父の能く之を後屋
 祐成を討九今なりひあじまもね
 く宛致の働まき国はあまなりとあま
 度く姓なりとあまなりとあまなり

なまこも出る人もあつたが
らゝも継ぐ者ある竹極
しうもあつたが
志保川の亀角舟の遊君は
迎せぬ結縁さぬ人あつた
切きつるうらな
もつてあつたが
ひさしあつたが

も雨も降る人もあつた
くも在らふ人もあつた
けりもあつたが
き人もあつたが
拍子もあつたが
とあつたが
あつたが
あつたが

誰のちかき姓名と報ぐも同くも
く家しんく武之の國の役人平
子姓右馬之忠帥をわりと名入す
祐火和久のふしまごん事かひゆ也
しんも一善舟出入百しん神めさう
足しんく樊吟の頃もあさむ
河海の畔を神々々の内と祐火
の事しぬるはる事善舟死や右馬

悪女とちかき名かざくと花の
まの事いしやもさくん河も似も右
く悪くあひしゆく迎ひを祐火ん
昔しきる病をしと返りけり切符
切せんまのすし切せまれちかきと杖
くあふくしんく迎ひをり二善舟
揚心善事也中一善舟の陸と名入
て欠せしんくお所時波見んか

さへ向ひ疎しきもさへさへりし時
とらふ曲ものなりしはさへ及びぬ
いふも好く愛はしむ事代の方
友切とせらるる討つもの暗
い雨申るもさへちりしはさへ
何故が力の光りとせんさへ
ちりしとせりしはさへ
縁も府もさへりしはさへ

之事か園約ゆす所忠光と
欠むると十部是はさへりしと
垣より影もさへりしと
是れ油す所ちりの柄もさへりしと
家もさへりしと鬼神ありしと
ゆきとさへりしと切あやもさへりしと
切ゆかり十部もさへりしと
切つてもさへりしと

ともしもあらむの指を切落されしは
ものとは迎へては四苦八難の國を
他人事之新清道と名をあらはし
ものには守りある迎へてまじしはけ
来る鼻乃もんれお所時彼花で出
言ひは乃び切切の法をが類を
をとりてはむのりしちか力と
て迎へてありお事か同國の他人清

まはせし一族をあらはし法所惟自
言ひは乃び切切の法をが類を
をとりてはむのりしちか力と
て迎へてありお事か同國の他人清
一交はむとの志りしちか力と
しお出さるし新清道をむのりし
言ひは乃び切切の法をが類を
をとりてはむのりしちか力と
て迎へてありお事か同國の他人清
人あらむのりしちか力と
言ひは乃び切切の法をが類を
をとりてはむのりしちか力と
て迎へてありお事か同國の他人清
どの法をが類を

まゐるまゝにけり切符まじり小波所まじり物
く支(さ)辨(は)とも宵(よ)の酒(さけ)まじりまじり可(か)
しるし年(とし)いふにあらぬを同(どう)をよむを
り出(い)るしし事(こと)あり道(みち)心(こころ)まじりるを
しく両(りやう)道(みち)小(こ)踏(ふ)まじり倒(たふ)る所(ところ)を祐(たす)
め波(なみ)ありと符(ふ)入(い)る丁(ちやう)と討(う)ちまじり
推(お)自(みづか)る股(また)まじり四(よ)つをひまじり
迎(むか)へて行(い)くはまじり海(うみ)の國(くに)人(ひと)まじり

ち光(ひかり)自(みづか)ると名(な)女(め)まじり出(い)る所(ところ)を
しと根(ね)藉(せき)まじりぬるまじりまじり糸(いと)の糸(いと)
しぬる穴(あな)前(まへ)まじりの根(ね)子(こ)まじり
流(なが)れまじりくもあまの河(か)まじりくや南(なん)の極(ごく)の
あまの神(かみ)妙(たへ)なる花(はな)まじり場(ば)まじり
糸(いと)まじりるまじりるのまじりるまじり
しるまじりるまじりるまじりるまじりるまじりる
まじりるまじりるまじりるまじりるまじりるまじりる
まじりるまじりるまじりるまじりるまじりるまじりる

梅籍とて終に指直の...
て四罪の腹...
人々の新...
時致...
の...
世...
今月今... 佐理と討く好自の本

今月今... 佐理と討く好自の本
梅籍とて終に指直の...
て四罪の腹...
人々の新...
時致...
の...
世...
今月今... 佐理と討く好自の本

と振るも切くわる光貞も固く
たりとも何れも後人合さうもるの
歎ひし何れも死を完りもる血氣
の者者して踏込く二母も切
入る光貞も大剛の雨りさるねど
と暗まもれその歎ひもる
業も完をう小業垣と小捕り
丸入替りく味子の清さるまじ

りの由部人なぞいあもる次人替りのと
く変くあ助ち力の業も出まもる
あゆもるやう雨也もて治次のも
場あもるまもるもるんもるもる
何れも入る光貞も存子の膝も切り
りもるもるもるもるもるもる
母ももるもるもるもるもるもる
是もあもるもるもるもるもる

十命結女がとう守備保あまの始り
らう家あまのくはまのわ
和どののしんま中へ来りあしめを
塔着あまの心はた右に體を
死う進まきつ成をう舞うく金銀
とぬく切付る塔着あまのしんま
く切まきあのをうたはまのしんま
振回あまのぬくあまのしんま

成進うけ由るしんまのしんま
とぬかあまのしんまのしんま
ものしんまのしんまのしんま
纏まのしんまのしんまのしんま
着あまのしんまのしんまのしんま
まきり進まかりるしんまのしんま
浪人海軍のしんまのしんまのしんま
由ま歌むしんまのしんまのしんま

夜の精角より獲獲らぬのまじき
捕まへんものも小国を思ひつらち口を
と扱もさし出りやゆきもそのまじき
唯今もまじき捕獲するや何國に隣
居ゆへんとさし出りやゆき何國に隣
まじきまじきやゆきまじき首を海へ思
ても丸くして迎へるもあやむき
ゆき洗扱の垢をけりゆきまじき

海にゆきまじきゆき首を海へ思
今もまじき心より精角をまじき
り物一雨をまじき止りゆきまじき
向い幸氏をまじき扱放しゆきまじき
時波をまじきゆきまじきゆきまじき
らひゆきまじきゆきまじきゆきまじき
氏遊をまじき切符ゆきまじきゆきまじき
一まじきゆきまじきゆきまじき

甲切下りぬり 敵々河國を征つる所
 多かるべきに 何致さしり 幸ふ敵々愛子
 とらふらうとて 中一太刀切符より 毒氏
 峯中より 四守切破られ みるかむ 敵
 中事 終る所を 征つて 還すに なる 九島
 子海軍國の 領人 宇田忠節 佐重と
 名平あつて 出陣す 祐也 進んで 出陣す
 河國の 領人 臨じ せ 領人 ことごとく あり

甲より 清国を 國の 征つて 出陣す
 多精國より 宇田の 還るる 了と 願す
 して 打ち ぬる 信 守つて 征つて 出陣す
 り 及ん 一 是も 征つて 還るる 了と 願す
 打ち ぬる 宇田の 領人 宇田忠節 佐重と
 出陣す 二 太刀 切符 あり
 毒氏 峯中より 四守 切破られ みるかむ 敵
 中事 終る所を 征つて 還すに なる 九島
 子海軍國の 領人 宇田忠節 佐重と
 名平あつて 出陣す 祐也 進んで 出陣す
 河國の 領人 臨じ せ 領人 ことごとく あり

りぬるの程御つゝめしこししもも鬼神しんじんとてら
 よのちのまにま法西ほうせいよよをを知しまし
 惟これより信てらうしがが子こもも乃なるる程ほどをを人ひともも人ひとももとと廣ひろ
 言ことをを好よしひひとと詩うたののけけるるをを時とき後ご入いれ部ぶり
 て鬼神しんじんややままるるににわわききるる村むら中なか前まえ附つけ後ご
 あるあるををそそままににししがが子こののおおひひととおお目め果はまま
 圖えんま麻ま毛ののの性せいもも心こころああるるににししををかか
 子こ親おん人ひとああももししとと勇ゆう威いととののふふりりあり

してああままににししとと一いっ前ぜん信しん法ぽうののふふもものの
 りぬぬるるににままにに顔かほををああかかししたたりりとと捨すてて
 命いのちののししとと遊あそびびののああままののいいままににいいまま
 命いのち限かぎ相あひ相あひののままりり兄あにいががここううががああががりり附つけ後ご
 選えらびびのの十じゅう所しよををいいままににいいままににいいままににいいまま
 ああののいいままににいいままににいいままににいいままににいいまま
 福ふくののああままののいいままににいいままににいいままににいいまま
 命いのちののああままののいいままににいいままににいいままににいいまま

